

早稲田大新聞

創刊日 明治三十四年九月五日
本紙の宗旨 早稲田大學の発展と
社会の進歩を促進するに在り
発行所 早稲田大學新聞部
印刷所 早稲田大學印刷部
電話 二二二二
代金 毎部五銭
定額 毎月一元二角
半年六元
一年十二元
外埠 郵費在り

先づ官學を叩き倒せ

官學の腐敗は、日本の進歩を阻害する最大の要因である。官學は、国家の利益を第一とし、個人の自由を犠牲にする。官學は、知識の自由を奪ひ、思想の統一を強制する。官學は、進歩を阻害し、保守を維持する。官學を叩き倒さなければ、日本は進歩しない。官學を叩き倒せ、自由の學を築け。

官學の腐敗は、日本の進歩を阻害する最大の要因である。官學は、国家の利益を第一とし、個人の自由を犠牲にする。官學は、知識の自由を奪ひ、思想の統一を強制する。官學は、進歩を阻害し、保守を維持する。官學を叩き倒さなければ、日本は進歩しない。官學を叩き倒せ、自由の學を築け。

奴隸道德に反逆す

日本大學生 福岡 止子
奴隸道德とは、國家主義、軍國主義、天皇崇拜、忠孝節義の束縛である。奴隸道德は、個人の自由を奪ひ、思想の統一を強制する。奴隸道德に反逆す、自由の道を歩む。

奴隸道德とは、國家主義、軍國主義、天皇崇拜、忠孝節義の束縛である。奴隸道德は、個人の自由を奪ひ、思想の統一を強制する。奴隸道德に反逆す、自由の道を歩む。

自由の鐘

政治期を前にして
自由の鐘は、自由の聲を告げる。自由の鐘は、個人の自由を告げる。自由の鐘は、思想の自由を告げる。自由の鐘は、進歩の聲を告げる。自由の鐘を叩け、自由の道を歩む。

自由の鐘は、自由の聲を告げる。自由の鐘は、個人の自由を告げる。自由の鐘は、思想の自由を告げる。自由の鐘は、進歩の聲を告げる。自由の鐘を叩け、自由の道を歩む。

家庭用兒童劇

文學博士坪内逍遙先生著 小川左行氏畫
附録 兒童劇講演會 早稲田大學出版部
發行所 早稲田大學出版部

兒童劇講演會

早稲田大學出版部
發行所 早稲田大學出版部

商業新報

日刊十頁 定價 六分
發行所 早稲田大學出版部

英文學叢書

第一輯特別會員募集
發行所 早稲田大學出版部

早稲田大學出版部

發行所 早稲田大學出版部

日本書紀通釋

發行所 早稲田大學出版部

早稲田大學出版部

發行所 早稲田大學出版部